

衛星航法システムに関する国際委員会（ICG）の現状

平成 19 年 3 月 22 日
外務省国際科学協力室

1. 概要

国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）において設立準備が進められてきた衛星航法システム（GNSS）に関する国際委員会（International Committee on Global Navigation Satellite Systems (ICG)）、関心国・組織によるボランティアベースの活動。

2. 会合実施状況

（1）第 1 回会合（2006 年 11 月 1 日、2 日 於：ウィーン）

- ・ 委任事項（TOR）及び作業計画の採択。
- ・ 国連宇宙部(OOSA)が運用する ICG ポータルサイトに、我が国の GNSS 関係機関 URL をリンク先として記載。
（国交省・航空衛星システム、神戸航空衛星センター、電子航法研究所、JAXA）
- ・ 米国より ICG の下に、GNSS システムの互換性・相互運用性等を議論することを目的とした「GNSS プロバイダーフォーラム」の設立を提案。
- ・ 当初予定されていた各国・機関の ICG メンバーシップ表明は見送られた。
（露・印が国内調整を理由に表明を先送りしたため。中も表明をしていない。）

（2）第 2 回会合準備会合（2007 年 2 月 21 日 於：ウィーン）】

- ・ 9 月 5 日～7 日にインド・バンガロールで開催予定(時期、場所ともに変更の可能性あり)の第 2 回会合について、アジェンダ案を検討。
- ・ 初日午前中に、第 1 回 ICG 報告書(A/AC.105/879)中の作業計画 a～d に対応した 4 つのワーキンググループを開催し、システムから利用まで GNSS の技術的側面を専門家により幅広く議論する。

作業計画と WG におけるトピック

- (a)互換性と相互運用性：現在/将来・国際/地域における互換性・相互運用性の検討、電磁波干渉軽減の検討
- (b)サービスの性能の向上：電離圏・対流圏の補正アルゴリズム、GNSS の室内利用、マルチパスによる GNSS ユーザへの影響
- (c)ユーザー情報の普及：ユーザ - 情報センターの設立等
- (d)各国、地域、国際機関の協力：観測技術の統合・干渉、欧米、アフリカに既存のフレームワークを考慮した共通測地標準フレームワーク(common geodetic reference framework)の発達
- ・ 7 日に開催する ICG 本会合においては、参加国から自国の活動についてプレゼンを行うことが求められている。

3. 我が国の国内整理の現状

ICG 会合には、メンバー国として登録する（暫定的に外務省ウィーン代表部をコンタクトポイントとして登録）。国内の連絡体制は、運輸多目的衛星用衛星航法補強システム（MSAS）のコンタクトパーソンは国交省、準天頂衛星システム（QZSS）のコンタクトパーソンは文科省として整理。

【参考】メンバーシップ体系

（1）メンバー

- ・ 国家及び国家が経営する GNSS プロバイダー
- ・ 国の中で複数ある場合は、各国に一つのコンタクトポイントを設定
- ・ ICG 意思決定に参加できる。
- ・ ICG 会合をホストし、議長を務めることができる（議長は一年ごとに持ち回り）

（2）アソシエイト・メンバー

- ・ GNSS サービス及び応用業務を扱う国際機関及び NGO
- ・ ICG 意思決定のコンセンサスに加わらない
- ・ ICG への助言、活動のモニター及びワーキンググループ、作業計画活動への参加

（3）オブザーバー

- ・ ICG 意思決定のコンセンサスに加わらない
- ・ ICG への助言、活動のモニター及びワーキンググループ、作業計画活動への参加

4. 今後の予定

- ・ OOSA より ICG へのメンバーシップ登録を確認するための書簡が発出される予定
現状の整理通り、メンバー国として登録
- ・ 第 2 回会合は、9 月 5 日～7 日まで印バンガロールにて開催予定

（了）